

国内の自主防災活動の評価に関する文献検討

(浅野泰貴、野島敬佑、河原宣子：日本災害看護学会誌 2017；19：25-35)

2018年9月7日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

日本は、全世界の0.25%の国土面積しかないにもかかわらず、マグニチュード6以上の地震回数が20.5%と非常に高いことが報告されている。そのため、自然災害に対する防災・減災の取り組みに関しては我が国の重要な課題となっている。防災・減災の取り組みに関しては、阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓から、自助・共助の重要性が報告されている。災害時の自助・共助に関する取り組みとして、地域住民が任意で結成する自主防災組織がある。自主防災組織は確実に数を増やしているが、役員の固定化や高齢化、防災訓練の低い実施率・参加率など課題も多い。また、自主防災組織加入自覚率は低く、「机上の空論ではないか」と懸念されている。このような課題や懸念がある自主防災組織を災害時に有効に機能させるためには適切に活動の評価をしていくことが重要である。

そこで本研究では、学際的に自主防災活動の評価に関する先行研究の調査を行い、確立された自主防災活動の評価ツールがないかを明らかにし、また、その実態を明らかにすることで、今後の自主防災活動に生かしていくことを目的とする。

結果、CiNii Articleでは計30件検出し、医学中央雑誌WEB Ver.5では計4件検出した。その中で、自主防災活動の評価に該当していない文献や抄録のみの文献、重複して検出された文献を除き、計22件を抽出した。この中で、医療分野における文献は計4件(2011年2件、2013年1件、2015年1件)含まれていた。次に、自主防災活動の評価に関する文献の中から自主防災活動に関する評価ツールを開発及び使用している文献を計12件抽出した。この中で、医療分野における文献は計2件(2013年1件、2015年1件)含まれていた。抽出された文献を精読し、開発及び使用している評価ツールに分類したところ、「共助力調査項目」が2件、「地域防災力評価ツール」が5件、「地震災害対応力チェックシート」が4件、「洪水リスク認知度評価モデル」が1件であった。

考察として、3つの視点から考察していく。

1. 年代別による文献数

自主防災活動の評価に関連した文献は、1995年の阪神・淡路大震災の時に初めて1件行われ、2004年の中越地震の時は1件のみであるが、2007年の中越沖地震と2011年の東日本大震災の時には最大4件行われている。このことから、大規模災害で一時的に災害に対する意識は高まる可能性が考えられるが、自主防災活動の評価に関連した研究は継続して積極的に行われていないことが明らかになった。

医療分野においては2011年に2件、2013年に1件、2015年に1件行われており、近年にかけて自主防災活動の評価に関連した研究が医療分野においても行われてい

ることが明らかになった。

自主防災活動の評価ツールに関しては、2007年に初めて研究が取り組まれており、比較的近年に初めて研究され始めた。確立された評価ツールの開発は、安定した評価基準ができ、利便性が高まることで、簡易に継続的評価が可能となる。そのため、自主防災活動の評価に関連した研究を行っていく中で、徐々に評価ツールの開発が注目されていったのではないかと考える。

2. 自主防災活動の評価ツール

すべての評価ツールが災害を限定しており、地震災害と洪水災害の2つに限定されていた。次に、評価ツールには、研究対象を自主防災組織のリーダーにするのか、また、どこの地域や組織にするのかに違いがあることが明らかとなった。次に、評価の視点が共助力に焦点を当てているのか、また、防災力、対応力、リスク認知度と自主防災活動とのズレに焦点を当てているのかの違いが明らかとなった。評価ツールに関しては、「災害の種類」や「研究対象」、「評価視点」をある程度定めることでツールとして確立していることが分かったが、具体的にし過ぎるとすべての地域で利用することが難しくなることも分かった。

3. 看護への示唆

自主防災活動の評価に関連した研究において、文献数から考えると、医療分野の研究は積極的に取り組まれている研究ではないことがわかる。地域住民の健康と生活を守るということは看護の重要な役割であり、そのため、形式的・表面的ではなく自主防災活動に取り組む人々の実際に焦点を当てて評価していくことが重要であると考える。今後、自主防災活動の評価に関連した研究が盛んに行われていくことに期待したい。

まとめとして、自主防災活動の評価に関連した研究は、大規模災害で一時的に災害に対する意識は高まるが、継続的に行われていないことが明らかとなった。医療分野においては、文献数は少ないながらも行われていた。自主防災活動の評価ツールは、2007年から研究が始められており、比較的近年に研究され始めたことが明らかとなった。また、自主防災活動の評価ツールに関しては、災害の種類、研究対象、評価の視点に違いはあるが、一般化するには形式的・表面的な項目とならざるを得ないことが明らかとなった。

今後は、評価ツールだけではなく、コミュニティや自主防災活動の内容を統制して自主防災活動の評価について検討していくことが必要だと考える。